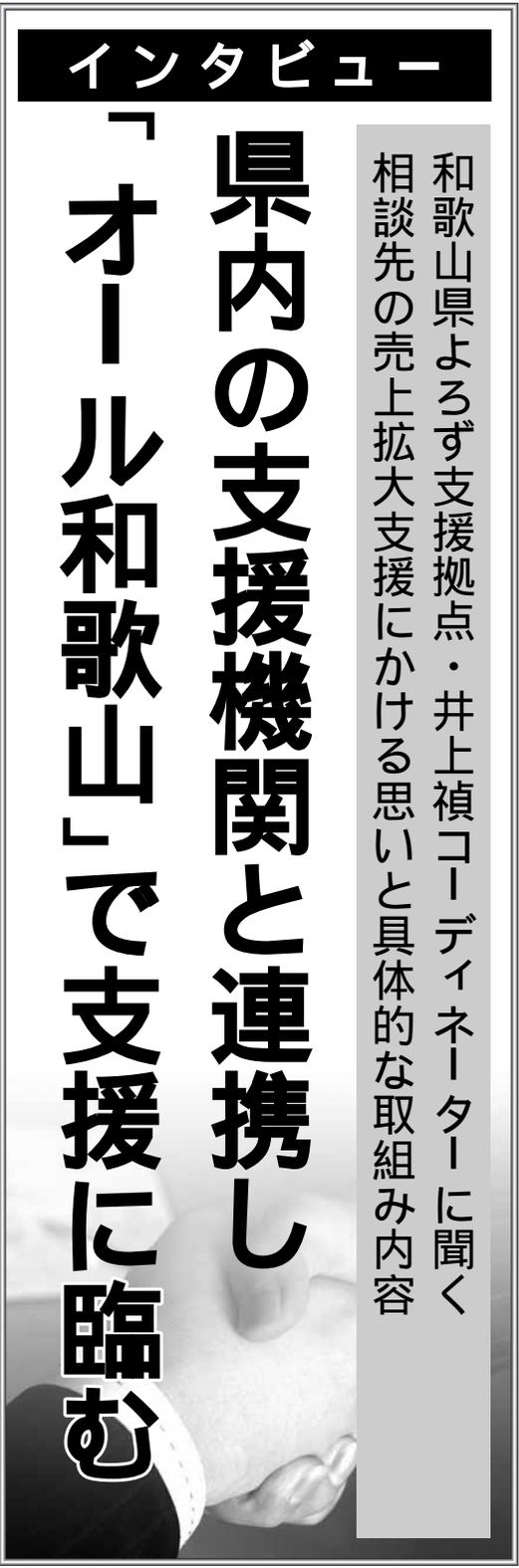


インタビュー

# 県内の支援機関と連携し 「オール和歌山」で支援に臨む

和歌山県よろず支援拠点・井上禎コーディネーターに聞く  
相談先の売上拡大支援にかける思いと具体的な取り組み内容



6月2日、「よろず支援拠点」が産声を上げた。よろず支援拠点とは、中小企業庁が展開する「中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業」の施策の一つで、中小企業・小規模事業者のための経営相談所として各道府県に一施設ずつ整備されたものである。売上拡大や経営改善をはじめ、経営上のあらゆる悩みに対応することを目的としており、駐在するコーディネーターが具体的なアドバイスを行う。相談内容によっては、金融機関や専門家

どの認定支援機関を紹介するなど、相談窓口役としての機能も期待されている。

和歌山県よろず支援拠点のコーディネーターを務める井上禎さんは、紀陽銀行の出身。地域振興部長から、出向という形でコーディネーターに応募した。銀行・信用金庫の関連会社を除くと、現役職員がコーディネーターに転じたのは、紀陽銀行以外では、しまね信用金庫のみである。

コーディネーターに応募した背景にはどんな思いがあったのか、

和歌山県よろず支援拠点にはどんな悩みを持った相談者が来店し、それに対してどのようなアドバイスをしているのか。井上さんに話を伺った。

井上さんは紀陽銀行で地域振興部長を務めていたわけですが、どのような思いから和歌山県よろず支援拠点のコーディネーターに応募されたのでしょうか。

井上 きつかけは「ちいさな企業」成長本部」のパネルディスカッションでした。

「ちいさな企業」成長本部」は中小企業・小規模事業者の成長を実現することを目的に、平成25年2月に中小企業庁が立ち上げたものです。同年6月には行動計画が作成され、計画を着実に実行するために、全国各地で中小企業・小規模事業者と支援機関を交えたパネルディスカッションが開催されました。和歌山市でも同年11月に開催されたのですが、縁あって、そのコーディネーターを私が務めさせていただいたのです。

ソリューション営業を担う地域

振興部において、私は地域の中小企業とコミュニケーションを密にとり、事業承継や海外ビジネス支援、ビジネスマッチングなどを通じて、経営課題の解決に積極的に取り組んできたと思っております。しかし、パネルディスカッションに参加された企業、とりわけこれまで銀行とは取引が少なかつた小規模事業者の切実な悩みを聞く中で、まだ不十分だったのだなと痛感したのです。

そして年が明け、よろず支援拠点のコーディネーター公募の話を

耳にしました。折しも、その年の6月に銀行で節目の55歳を迎えるタイミングでもありました。自分がかつて築きあげてきたネットワークを活かして、もう一度中小企業・小規模事業者のために汗を流してみたい。そんな思いから応募を決断したのです。

6月2日のスタートから約2カ月が経過しました。よろず支援拠点には、どんな企業からのような相談が寄せられていますか。

井上 業種は製造業や旅館業、土木事業など様々ですが、企業の

規模としては小規模事業者の割合が多いというのが実感です。「よろず支援」を掲げていることから、売上拡大のほかに資金繰りに関する相談も寄せられています。

よろず支援拠点には融資機能も補助金を交付する機能もありませんから、資金繰りの相談に関しては、支援機関の専門家派遣事業を紹介し、経営改善のアドバイスを受けてみてはどうかと提案しています。中小企業庁の「ミラサポ」では年3回まで専門家派遣が無料ですし、わかやま産業振興財団でも派遣費用の3分の1の自己負担で専門家派遣を受けられます。

ただし、単に支援機関を紹介するだけでなく、経営改善計画の策定が必要な際は金融機関に勤めていた経験を活かして、金融機関が納得するポイントや一歩踏み込んだ経費削減策などもアドバイスしています。



井上 禎 1982年4月紀陽銀行入行。東大阪、羽倉崎、白浜県庁各支店長を経て、2010年10月地域振興部長。2014年6月より、和歌山県よろず支援拠点コーディネーター。

企業の良いところを探し、いくつもアイデアを提供する

相談者と面談する際は、どんなことを心がけていますか。

井上 現在の、営業地域が異なる複